



お 3地区保育所で ゆうぎ会

3地区の保育所ではおゆうぎ会が行われ、どの保育所もホールはこの日を楽しみにしていた保護者の方などでいっぱいになりました。年長のさくらさんの劇では、方言を使ったり、おせち料理の意味などを教えてくれる内容でその可愛い姿とは反対にしっかりした劇の内容に驚かされた素晴らしいおゆうぎ会でした。



明 第9回会津の編み組工芸品展で 和民芸保存会2名の作品が受賞

10月19日「第9回会津の編み組工芸品展」の表彰式が三島町で行なわれ、明和民芸保存会の角田弘芳さんが南会津町長賞、梁取住栄さんが只見町長章を受賞されました。今回の工芸品展には、応募人数98人、計584点の作品の応募がありその数ある応募作品の中で見事に今回の賞を受賞されました。



▲受賞された梁取さん(右)と角田さん

ボ 小林明朗見守り隊 ランティア活動で表彰状

明和小学校の児童が安全に登下校出来るように毎日欠かさず見守り活動を行ってきた小林明朗見守り隊が、福島県学校保健会会長より表彰されました。小林明朗見守り隊は小林老人クラブの方が中心となり平成20年2月に創設された団体です。

これからも子供たちの安心・安全の為、見守り活動をよろしく願いいたします。



▲見守り隊員の角田さん(右から2番目)と橋川さん(右から3番目)

ブナセンター講座 「ツキノワグマの生態と 付き合い方」



11月10日(日)、山崎晃司 氏(茨城県自然博物館)をお招きし、ツキノワグマについての講演会が行われました。

講演は、「ツキノワグマはどういう動物なのか?」その生態についての説明と、今起きているツキノワグマと人との軋轢(あつれき)(仲が悪くなる事)について、ツキノワグマの生態や生息状況などもふまえて、私たちはどういった「付き合い方」を考えていけばいいのか、というお話でした。

クマの仲間は、巨大な犬歯を持つ“食肉類”に分類され、もともと肉食だったものが、樹上生活に特化し、植物を食べるように変化していった過程が、発達した臼歯から伺えます。世界にクマの仲間は8種類生息しており、生息場所によって、肉食、昆虫食、極端に偏った植物食、雑食と多様な環境に適応しています。日本には、そのうちの2種類、本州にツキノワグマ(アジアクロクマ)と北海道にヒグマが生息しています。



▲盛況だった講演会のようす

ツキノワグマと人との軋轢について、農作物への被害や民家周辺の出没が増えた要因として、冬眠前の重要な食糧となる堅果(けんか)(クリなど堅い皮に包まれた果実や種子)の豊作年・不作年のほか、中山間地域の集落が無くなってきている事や里山の利用が無くなったことで、クマが生息する森林と人の生活圏の緩衝地帯が消失してきていることが挙げられました。

また、一度楽に餌を確保できる餌場を覚えてしまうと、山に戻らずにその周囲で生活するようになるというお話もありました。只見町では、農作物への被害はほとんどありませんが、民家周辺の栗林に通うクマや、養蜂の巣箱が荒らされるなどの被害が確認されています。

人身事故の割合や傾向についても関東の事例をもとにお話があり、レクリエーションなどでクマの生息域に



▲只見町内で目撃されたツキノワグマ

立ち入った際に遭遇した割合が高く、堅果の不作だけが事故の要因ではないということがわかりました。

最後にツキノワグマに「出会わない」ために私たちが気を付けることと、出会ってしまった時のための対処法などのお話の他、山崎さんが、クマの調査中に襲われそうになった話や針葉樹に含まれる成分で酔っぱらったクマの映像なども見せて頂きました。

当日は30名の方が聴講され、ツキノワグマに対する理解を深める講座となりました。